

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	国語総合 現代文	学年・学級	4年・全クラス	単位数	2
--------	-------------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

<p>【学習目標】 評論、小説、韻文等、教材それぞれの特徴を知り、文章の構成や語感といったあらゆる事項から作品の内容や意図を理解し、自分なりの解釈や意見を持つ。</p> <p>【履修上の注意】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 提出物は期限を厳守する。(期限を過ぎたものにはポイントを与えないが、必ず提出すること) 2 授業に積極的に取り組む。(取り組み方によっては出席と認めない) 3 理由のない遅刻・欠課は認めない。(一定数を越えた場合単位認定に関わる) 	
使用教科書・副教材等	<p>【教科書】 高等学校 国語総合 改訂版(三省堂)</p> <p>【副教材】 力をつける現代文 基礎演習 新版完全征服演習入試漢字コア1800</p>

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する要点 (合格ライン)
前期	4	小説 『羅生門』	・主人公の心理の変化を読み取る。 ・小説の面白さを知る。	・主人公の心理の変化には何らかのきっかけがあることを理解する。 ・背景や情景描写等が小説に与える効果を知る。	第1回 考查	小説 ・心理の変化のきっかけ ・情景描写の効果 評論 ・主張の類推
	5	評論 『情報流』	・論理的なものの見方、考え方を知る。	・たとえから筆者の主張を類推する。		
	6	評論 『命はだれのものなのか』	・文章における事例の重要性を知る。	・結論に至るまでの構成を理解する。 ・客観的な事例の必要性を知る。		
	7	模試対策	進研模試受験対策	・模試の受け方を知り、過去問を解く。	第2回 考查	評論 ・構成の理解 小説 ・行間の読み取り 詩 ・言葉に込められた意味
	小説 『少女』	・登場人物の行動の意図を読み取る。	・行間から主人公の行動の意図を読み取る。			
	9	詩 『レモン哀歌』 『崖』	・さまざまな表現から作者のメッセージを読み取る。	・詩独特の表現方法に習熟する。 ・言葉に込められた意味を理解する。		

後 期	10	評論 『ものとことば』	・評論の読み方に習熟し、評論を通して知識を得る力を身につける。	・事例の部分と主張の部分を整理して、筆者の主張を読み取る。	第 3 回 考 査	評論 ・主張の読み取り 小説 ・描写からの読み取り
	11	模試対策	進研模試受験対策	・模試の受け方を知り、過去問を解く。		
		小説 『富岳百景』	・私小説の読み方に習熟する。	・富士の描写の変化から、作者のものの見方・考え方を読み取る。		
	12	評論 『ネットが崩す公私の境』	・文章の構成の重要性を理解する。	・段落ごとの役割を理解する。	第 4 回 考 査	評論 ・段落の役割 ・長文の読み取り
	1	模試対策	進研模試受験対策	・模試の受け方に習熟し、過去問を解く。		
	2	評論 『地球の有限性と人間』	・長さのある評論の読み方に習熟する。	・区切りごとに整理して読み取る。 ・評論を通して知識を得る。		
3	表現	表現に関わる活動	・手紙文を書く。 ・韻文を作る。			
【課題・提出物等】		ノート・問題集・宿題・週末課題・長期休暇課題等				
【年間を通しての評価方法】		定期考査・教科テスト・課題テスト・小テスト・提出物・授業態度等				

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	授業に関心を持って積極的に取り組み、内容の理解・知識の習得に努める。	授業態度・提出物
思考・判断	作品の構成や行間を読み取り、作品の主旨を把握することができる。	考査・発言
技能・表現	様々な表現方法を使った作品を理解することができる。また、それによって生まれた自分の考えを・感想を表現することができる。	考査・発言・作文等
知識・理解	漢字の書き取りや文章表現の読み取り、文学史、慣用句の意味等、作品を読み取る上で必要な知識を身につける。	考査・小テスト

(3) 評定の出し方について

考査ポイント(70ポイント×4回) 定期考査・教科テスト・課題テストで判断します。
平常点ポイント(30ポイント×4回) ノート・問題集・宿題・長期休暇課題・小テスト・授業態度で判断します。
定期考査は「現代文」と「古典」に分かれますが、評価は「国語総合」として出します。

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	地歴・世界史A	学年・学級	4年・全クラス	単位数	2
--------	---------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

世界の歴史（特に近現代史）を学ぶことによって、人類の課題を多角的に考察する歴史的思考力を形成する。	
使用教科書・副教材等	『世界史A』（一橋出版）・『最新世界史図説タペストリー』（帝国書院）

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考 査 範 囲	考査に出題する要 点(合格ライン)		
	4	第1章 諸地域世界と 交流圏	諸地域の特徴を知る。 諸地域相互の交流が世界 の一体化に繋がることに 気づく。	1 東アジア世界	第 1 回 考 査	教科書・図説・ 授業プリント（ ノート）をもと に授業中に指摘 された基本的事 項を理解する。		
	5			2 南アジア世界				
6	第2章 一体化する世 界	世界商業の進展を軸に世 界の一体化の過程を理解 する。	3 イスラム世界	4 ヨーロッパ世界			5 アメリカ・アフリカ ・太平洋地域	6 ユーラシアの交流圏
7	9		世界の一体化の進展と資 本主義と国民形成の過程 を理解する。 ヨーロッパの進出による アジアの従属化や抵抗を 通して19世紀の世界の変 貌を理解する。	1 大航海時代の世界			第 2 回 考 査	教科書・図説・ 授業プリント（ ノート）をもと に授業中に指摘 された基本的事 項を理解する。
				2 アジア諸帝国と ヨーロッパの発展				

後 期	10	第3章 現代世界の 展開と日本	世界大戦の総力戦としての性格に気づく。 戦争が及ぼした影響を理解して、平和の意義について考察する。	1 二つの大戦	第3 回 考 査	教科書・図説・ 授業プリント（ ノート）をもと に授業中に指摘 された基本的事 項を理解する。
	11					
	12		第2次世界大戦後の国際情勢を知る。	2 米ソ冷戦と第三世界		
	1		日本が世界の諸国、諸地域と対話し共存する道を考察する。	3 地球社会へのあゆみと日本	第4 回 考 査	教科書・図説・ 授業プリント（ ノート）をもと に授業中に指摘 された基本的事 項を理解する。
2	第4章 現代世界の 課題	国際的な交流と協調の必要性に気づく。	1 市民社会の課題 2 地域と国際社会 3 科学技術と現代文明			
3						
【課題・提出物等】			定期考査ごとに授業プリント（ノート）の提出を行う。また、夏期休業・冬季休業中に地理・歴史学習の基本事項の確認課題を与え、休業明けの授業中にテストを行う。			
【年間を通しての評価方法】			定期考査、授業プリント（ノート）等の提出物、授業態度、出欠状況等を総合的に判断する。			
【教科テスト実施予定等】			予定なし			

（2）評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	世界の歴史的事象に関心を持ち、意欲的に追究しようとする。	授業観察・提出物
思考・判断	世界の歴史的事象から課題を見つけ、多面的に思考・判断しようとする。	授業観察・定期考査
技能・表現	教科書や図説の資料を十分に活用し、読み取ったことを的確に表現しようとする。	授業観察・定期考査
知識・理解	世界の歴史的事象についての基本的事項を知り、理解しようとする。	授業観察・定期考査

（3）評定の出し方について

考査ポイントの具体
定期考査の素点（100点）を70ポイントとする。
平常点ポイントの具体
提出物・プリント等の有無や内容、提出時期を総合的に判断して評価する。
授業態度・居眠り・私語等の行為について減点する。
上記項目について評価し、30ポイントとする。

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	数学・数学	学年・学級	4年・全クラス	単位数	3
--------	-------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

中学で取り扱ったものの延長であり、比較的イメージはしやすいでしょう。しかし内容が増え、計算力を問う問題も多くなりますので、内容の理解とともに計算力をつけることも重要な課題となります。後半でやる図形と計量では、今まで使用したことのない記号が出てきます。最初の定義と考え方をしっかりとおさえることが大切です。とにかく、こつこつと学習することが、一番大切です。必ず復習を毎日する習慣を身に付けましょう。

使用教科書 副教材等	使用教科書：改訂版 数学 (数研出版) 傍用問題集：クリアー 数 + A (数研出版), クリアー数学 + B(数研出版) 副教材：改訂版チャート式 基礎からの数学 + A(数研出版) 改訂版チャート式 基礎からの数学 + B(数研出版) 練習ドリル 数学 (数研出版), 練習ドリル 数学 (数研出版)
---------------	--

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查 範囲	考查に出題する 要点 (合格ライン)			
前 期	4	第1章 方程式 と不等式 第1節 式の計算 1. 多項式 2. 多項式の加法・ 減法と乗法 3. 因数分解	・式の見方を様々な角度から とらえることができるように なる。	・式を目的に応じて1つの文字に 着目して整理したり、1つの文字 に置き換えたりできるように演習 します。 ・式の展開及び因数分解を扱い、 目的に応じて変形したり、見通し を持って式を扱う演習をします。	第1 回 考 査	多項式の加法 減法乗法を計算 できる 因数分解 ができる 絶対値・根号 の計算ができる 一次不等式・ 二次方程式が解 ける			
	5	第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む 式の計算	・数を実数まで拡張すること の意義を理解しよう。	・数を拡張する基本的な考え方を 学びます。 ・無理数について四則計算の演習 をします。					
	6	第3節 1次不等式 と2次方程式 6. 1次不等式 7. 2次方程式	・1次不等式及び2次方程式 についての理解を深め、それ らを活用できるようになる。	・不等式の中の文字や不等式の解 の意味を理解しよう。 ・1元1次不等式を解くことが できるように演習をします。 ・因数分解や解の公式などを利用 して2次方程式の解が求められる ことを理解し解こう。					
	7	第2章 2次関数 第1節 2次関数 とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数の グラフ	・2次関数について理解しよ う。	・2次関数のグラフを対称軸、頂 点に着目し特長をつかむ演習をし てます。 模試に向けての演習あり			第2 回 考 査	二次関数のグ ラフが書ける 二次不等式が 解ける	
	8	3. 2次関数 の最大・最小 4. 2次関数の決定	・関数を用いて数量の変化を 表現することの有用性を認識 しよう	・2次関数のグラフを通して、関 数の値の変化を考察し、関数の最 大値・最小値を求めることができ るように演習をします。					
	9	第2節 2次不等式 5. 2次関数の グラフとx軸 の位置関係	・2次関数の考え方を2次不 等式を解くことなどに活用で きるようになる。	・2次関数のグラフとx軸との位 置関係から、2次不等式の解の意 味を理解し、求めることができ るように演習をします。					
	10	6. 2次不等式							
	後 期		第3章 図形と 計量 第1節 三角比 1. 正弦余弦正接 2. 三角比の 相互関係	・直角三角形における三角比 の意味、それを鈍角まで拡張 する意義を理解しよう。			・正弦、余弦及び正接の意味を学 びます。 ・三角比のいずれか1つが決まっ た場合の、他の三角比の値を求め る演習をします。 模試に向けての演習あり	第3 回 考 査	三角比を求 め、相互関係を 理解できる。 正弦定理・余 弦定理・面積の 公式を使うこと ができる。

後 期	11	第2節 正弦定理と余弦定理 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 第3節 図形の計量	・図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識しよう。 ・具体的な事象の考察に活用できるようになる。	・正弦定理と余弦定理を三角形の決定条件と関連付けることができます。 ・2つの定理を用いて三角形の辺の長さ、内角を求める演習をします。 ・2つの定理の活用場面としての平面図形や簡単な空間図形の計量をできるように演習をします。	第3 回 考 査	球の表面積・体積を求めることができ、平面図形・立体図形の相似比について知る。
	12	7. 三角形の面積 8. 球の体積と表面積 9. 相似と計量				
	1	第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 多項式の割り算 2. 分数式とその計算	・式と計算として、多項式の割り算や、分数式の計算、恒等式の意味を理解し活用できるようになる。	・多項式の割り算と、等式へ変形する演習をします。 ・分数式の扱いの演習をします 模試・数検に向けての演習あり	第4 回 考 査	多項式の除法・分数式の計算できる。 恒等式について理解できる。 等式・不等式の証明ができる。
	2	3. 恒等式 第1節 等式・不等式の証明 4. 等式の証明 5. 不等式の証明	・等式・不等式の証明を理論的にできるようになる。	・恒等式の性質を理解します ・等式の証明を理論的にできるよう演習します ・不等式の証明を理論的にできるよう演習します		
【課題・提出物等】		各長期休業中の課題(提出) 各定期考査毎のノート提出				
【年間を通しての評価方法】		定期考査, 課題テスト, 課題及び授業ノート等の提出物, 授業に取り組む姿勢, 出欠状況等を総合的に判断する。				
【教科テスト実施予定等】		あり				

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	・数学的な見方や考え方の良さを知り、それらを進んで活用する態度が育っているか。	・授業中の発言・態度, 家庭学習・小テスト・宿題など 定期考査 教科テスト 課題テスト
思考・判断	・事象を数理的に考察する能力が高まっているか。	
技能・表現	・数学的な表現・処理の仕方を習得しているか。	
知識・理解	・数量, 図形などに関する基本的な概念や原理・法則の理解が深まっているか。	

(3) 評定の出し方について

考査ポイントの具体 定期考査および課題考査, 教科考査の点数で評価する。(授業時の小テストは除く)
平常点ポイントの具体 提出物... ノートやプリントの有無や内容を総合的に判断して評価する 授業態度... 居残り, 私語等の授業を受けるにふさわしくないと判断される行為について減点する その他... 小テスト等の授業中の活動についても評価する

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	数学・数学A	学年・学級	4年・全クラス	単位数	2
--------	--------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

『場合の数と確率』を学習することにより、身近にある事柄を数学的に考えることの良さ、面白さを味わって欲しい。

『論理と集合』を学習することにより、物事を筋道を立てて考え、表現していくことを学んで欲しい。

『平面図形』では、三角形や円の基本的な性質を学び、定理をじっくり味わって欲しい。

使用教科書 副教材等	使用教科書：改訂版数学A(数研出版) 傍用問題集：クリアー数学 + A(数研出版) 副教材：改訂版チャート式 基礎からの数学 + A(数研出版)、練習ドリル 数学A(数研出版)
---------------	--

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	調査 範囲	調査に出題 する要点 (合格ライン)		
前 期	4	第1章 場合の数と確率 第1節 集合とその要素の個数 1. 集合 2. 集合の要素の個数 問題, 演習問題	<ul style="list-style-type: none"> 集合と要素, 部分集合, 共通部分と和集合, 補集合について, 理解する. 集合の要素の個数の表記を理解する. 倍数の個数の求め方を理解する. 集合の応用を解く. 	<ul style="list-style-type: none"> 「集合, 要素, 部分集合, 共通部分, 和集合, 補集合」の語句の意味を理解し, 表し方を理解しよう. $n(A)$の記号になれ, 和集合, 補集合の要素の個数を求めることができるようになる. 例題を通して, 集合の考え方で, 倍数の個数を求める方法を理解しよう. 文章題を考えることにより, 身の回りのことを集合を使って考えることを体験してみよう 	第1回 調査	集合とその要素の個数を求めることができる。 樹形図・表などを用い, 場合の数を数えることができる。 順列・組合せの総数を求めることができる。		
	5	第2節 場合の数 3. 場合の数 4. 順列	<ul style="list-style-type: none"> 樹形図をかき, 場合の数を求めることができるようになる. 和の法則を理解する. 積の法則を理解する. 順列の総数を求めることができるようになる. 順列に関する応用問題を解くことができるようになる. 	<ul style="list-style-type: none"> 樹形図とは何かを知り, もれなく場合の数を数え上げる方法として樹形図を使い, 和の法則を理解し, 問題をやってみよう. 積の法則を理解して, 約数の個数を積の法則を利用して求めることができるようになる. 「順列」の意味, 記号nPrの意味を理解して, 順列の総数を求めることができるようになる. 順列の考え方をを使って, 身の回りであることを考えよう. 				
	6	5. 円順列・重複順列 6. 組合せ 学力診断テスト対策	<ul style="list-style-type: none"> 円順列について理解する. 重複順列について理解する. 組合せの総数を求め, nCrの性質を理解する. 組合せに関する応用問題を解くことができるようになる. 組分けの総数, 同じものを含む順列を組み合わせを使って考える. 	<ul style="list-style-type: none"> 「円順列, 重複順列」について, 意味を理解し, 問題を考えよう. 「組合せ」の意味, 記号nCrの意味を理解して, 組み合わせの総数を求めることができるようになる. 「組合せ」の意味を考え, $nCr = nCn-r$が成り立つことを理解しよう. 「組分け, 同じものを含む順列」を組合せの考え方をを使って考えてみよう. 学力診断テストに向けて取り組もう. 			第2回 調査	二項定理が使える。 順列・組合せを使って, 確率が求められる。 独立な試行の確率が求められる。
	7	7. 二項定理 問題, 演習問題	<ul style="list-style-type: none"> $(a+b)^n$の展開式, パスカルの三角形, 二項定理を理解する. 	<ul style="list-style-type: none"> $(a+b)^3, (a+b)^4, \dots$を考えていながら, パスカルの三角形について考え, 二項定理へと発展させよう. 問題演習により, 理解を深めよう. 				
	8	第3節 確率 8. 事象と確率	<ul style="list-style-type: none"> 試行と事象について理解し, いろいろな事象の確率を考える. 	<ul style="list-style-type: none"> 「試行, 事象」の意味を理解し, 例を通して, 確認してみよう. 順列, 組合せの考え方をを使って, いろいろな事象の確率を求めてみよう. 				
	9	9. 確率の基本性質 10. 独立な試行の確率 11. 反復試行の確率	<ul style="list-style-type: none"> 確率の基本性質について理解する. 余事象とその確率について理解し, 実際に求めてみる. 和事象の確率について理解し, 実際に求めてみる. 独立な試行の確率について理解する. 反復試行の確率について理解する. 	<ul style="list-style-type: none"> 「積事象, 和事象, 排反事象, 空事象」などの言葉の意味を理解しよう. $0 \leq P(A) \leq 1$や, 加法定理などの公式を理解し, それを使って問題を解いてみよう. 「余事象」の意味を理解し, その意味から余事象の確率の求め方を考え, 問題を解くときに使えるようになる. 「試行が独立である」という意味を理解し, その試行が起こる確率を考えてみよう. 「反復試行」の意味を理解し, 二項定理をふまえながら, その確率を考えてみよう. 				
	10	12. 期待値 問題, 演習問題	<ul style="list-style-type: none"> 期待値について理解する. 期待値を利用した諸問題を考える. 	<ul style="list-style-type: none"> 「期待値」の意味を理解し, 求めることができるようになる. 期待値を利用し, 損が得か, 有利か不利か, などを考えてみよう. 問題演習により, 理解を深めよう. 				

後 期	11	学力診断テスト対策 第2章 論理と集合 1. 命題と条件 2. 逆・裏・対偶	<ul style="list-style-type: none"> 命題、条件とは何かを理解し、違いが明確にわかるようになる。 命題の真、偽の意味を理解し、それを調べることができるようになる。 命題 p, q の形を学び、命題の逆の意味を理解する。 必要条件と十分条件を学び、区別できるようになる。 条件の否定、命題の対偶の意味を知り、その真偽を調べられるようになる。 対偶、背理法を利用する証明を理解する。 背理法を用いて 2 が無理数であることを証明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力診断テストに向けて取り組もう。 自分で命題を作ることによって、命題とは、条件とは何かを理解していこう。 作った命題を発表し合い、それが正しいか(真か正し)、正しくないか(偽か)を検討していこう。 p, q の形になじもう。 命題の逆を作ってみよう。 必要条件、十分条件を正確に言えるようになる。 条件の否定を言えるようになる。 命題の対偶を作ることができるようになる。 対偶を利用した証明をすることにより、そのよさを味わおう。 背理法を利用した証明法を理解し、そのよさを味わおう。 問題演習により、理解を深めよう。 	第3回 回 考 査	命題の真偽がわかる。 必要条件、十分条件が区別できる。 逆、裏、対偶が作れる。
	12	問題、演習問題 第3章 平面図形 第1節 三角形の性質 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心、内心、重心 3. 三角形の辺と角 問題 第2節 円の性質 4. 円周角 5. 円に内接する四角形 学力診断テスト対策 6. 円と直線 7. 方べきの定理 8. 2つの円の位置関係 問題、演習問題	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の3辺の長さの性質、線分の比と三角形の角の二等分線と比の定理について理解する。 三角形の外心、内心、重心について理解する。 三角形の辺と角の大小関係について理解する。 円の弦と弦の性質、円周角の定理の逆について理解する。 円周角についての復習する。 円に内接する四角形の性質を理解する。 円の接線についての性質を理解する。 円の接線と弦の作る角の定理について考える。 方べきの定理について理解する。 2つの円の位置関係、2つの円の共通接線について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「2辺の長さの和は、他の1辺より長い」ことを理解しよう。 「内分・外分」、三角形の角の二等分線に関する定理を理解しよう。 三角形の外心、内心、重心の意味を知り、性質について理解しよう。 三角形の辺と角の大小関係を理解しよう。 問題演習により、理解を深めよう。 円の弦と弦の性質を理解しよう。 円周角の定理について復習し、それを拡張していこう。 内接する四角形の性質を調べよう。 学力診断テストに向けて取り組もう。 接点における半径とのなす角、接線の長さについて成り立つ性質を調べていこう。 接弦定理の意味を理解しよう。 方べきの定理の意味を理解しよう。 2つの円の位置関係と「共通接線」の意味を理解し、考えてみよう。 問題演習により、理解を深めよう。 	第4回 回 考 査	内分点、外分点が求められる。 三角形の外心、内心、重心の性質が理解できる。 円周角の定理、接弦定理、方べきの定理が使える。
【課題・提出物等】		各長期休業中の課題(提出)、各定期考査毎のノート提出				
【年間を通しての評価方法】		定期考査、課題テスト、課題及び授業ノート等の提出物、授業に取り組む姿勢、出欠状況等を総合的に判断する。				
【教科テスト実施予定等】		あり				

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	・数学的な見方や考え方の良さを知り、それらを進んで活用する態度が育っているか。	・授業中の発言・態度、家庭学習・小テスト・宿題など 定期考査 教科テスト 課題テスト
思考・判断	・事象を数理的に考察する能力が高まっているか。	
技能・表現	・数学的な表現・処理の仕方を習得しているか。	
知識・理解	・数量、図形などに関する基本的な概念や原理・法則の理解が深まっているか。	

(3) 評定の出し方について

考査ポイントの具体 定期考査および課題考査、教科考査の点数で評価する。(授業時の小テストは除く)
平常点ポイントの具体 提出物...ノートやプリントの有無や内容を総合的に判断して評価する 授業態度...居眠り、私語等の授業を受けるにふさわしくないと判断される行為について減点する その他...小テスト等の授業中の活動についても評価する

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	理科・理科総合A	学年・学級	4年・全クラス	単位数	2
--------	----------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

年間の学習目標	身近な自然の事物・現象について観察，実験などを通して，それらの基本的な方法を習得し，エネルギーや物質について考察し，自然を探究する力を養う。身のまわりの物質は原子，分子，イオンから成り立ち，それらの粒子の結び付きの変化で物質の性質が変わることや，エネルギーの出入りがあることを理解する。観察・実験の基本的な方法を習得するとともに，自然をエネルギーや物質の変化と変換などとらえ，科学的に考察する。
履修上の注意	授業については4年生全員に対して行う。内容としては，物質の成分、物質を構成する基本粒子、化学反応とその表し方、力、運動等に関する事象・法則などについて学習する。授業に集中し、整理されたノートを作成すること。新聞、雑誌記事やテレビなどで報道される様々な科学的な事象に興味を持つておくこと。
使用教科書・副教材等	教科書 「理科総合A」第一学習社 副教材 「ネオパルノート理科総合A」第一学習社

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查 範囲	考查のポ イント
前 期	4	1. 物質の 構成 (1)物質と人 間生活	物質を構成する成分及びその分離方法や検出方法について理解する。物質の最小構成粒子は原子であることを理解する。観察，実験の結果から，物質の性質を基本粒子の構成から考察する。	物質の成分 物質の構成元素 実験器具の安全な扱い方	第1 回 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・元素記号が書ける。 ・純物質と混合物、単体と化合物を分けられる。 ・観察・実験の基本的な方法を習 ・電子配置の図が書ける。 ・元素の周期表の構成を理解する。
	5	(2)物質を構成する基本粒子	周期表にもとづいて元素の性質について理解する。	原子の構造 元素の相互関係		
	6 7 9	(3)物質を構成する粒子と物質の形成	原子，分子，イオンとその結合についての基礎を理解する。原子の構造と関連させて分子，イオンの知識を身に付ける。物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解する。	イオンからできる物質 分子からできる物質 原子からできる物質	第2 回 考 査	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの化学結合の性質を理解する。 ・それぞれの結晶構造の違いを理解する。

後 期	10 11	(4)物質質量と濃度	原子量, 分子量, 式量の意味と, 構成粒子の数との関係を理解し, 知識を身に付ける。	原子量・分子量と式量 物質質量 溶液の濃度 密度 質量%濃度 関連の小テスト実施	第3回 回 考 査	・物質質量(モル)の計算ができる。 ・モル濃度やパーセント濃度を計算で求めることができる。
	12 1 2 3	2. 物質の変化 (1)状態変化 (2)化学変化とその表し方 1. 仕事と力学的エネルギー (1)力・運動の表し方	物質の状態変化を理解する。 化学反応式の量的関係を理解する。 質量保存の法則気体反応の法則を理解する。 物体の運動を表す変位, 速度など, それらの公式の関係について理解する。 直線上における速度の合成と分解, 相対速度の公式を理解する。	物質の三態 熱運動 化学反応式と物質の量的関係 (粒子数・質量・体積) 関連の小テスト実施 (課題: エネルギーと人間生活) 速さと速度, 等速度運動 速度の合成と分解	第4回 回 考 査	状態変化 ・化学変化の量的関係を物質質量と関連付けて理解する。 ・物体の運動に関する基本的な公式を理解し, それらをもとに計算ができる。
	【課題・提出物等】		授業ノート、問題集ノート、実験レポート、課題プリントの提出			
【年間を通しての評価方法】		定期考査、提出物(実験レポートを含む)、授業態度、出欠席状況等を総合して評価する。				

(2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
思考・判断	化学的事象について疑問を持ち、問題点をきちんと把握できるか。またその問題点の解決方法を思いつくか。これらをノート、プリント、定期テストから評価する。	ノート、プリント、レポート 授業態度、テスト
技能・表現	実験・観察の技能を習得しているか。その結果をグラフや図などにしてわかりやすく表現できるか。これらをノート、プリント、レポート、定期テストを通して評価する。	ノート、プリント、レポート 授業態度、テスト
知識・理解	事物、現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけているか。これらを定期テスト、プリント、ノートを通して評価する。	ノート、プリント、レポート 授業態度、テスト

(3) 評定の出し方について

考査ポイントの具体 定期考査(100点)を7割とする。
平常点ポイントの具体 提出物、課題、授業態度をそれぞれポイントにより評価し、3割とする。

3 担当者からのメッセージ

<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容は必ずその授業中にノートへ記入すること。 ・授業中に配布されたプリント・実験レポート・テストなどは必ずノートに貼り付けておくこと。 ・授業ノートの点検を行います。 ・復習および定期テスト対策として、問題集を解くこと。
--

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	保健体育・体育	学年・学級	4年・全クラス男子	単位数	3
--------	---------	-------	-----------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

1. 各種の運動の合理的な実践を通して、運動能力を高め、心身の発達を促すとともに、公正、協力、責任などの能力を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を育てる。
2. 運動の合理的な実践を通して、自分たちで計画を立てて、集団を組織する能力と態度を育てる。
3. 運動文化を創造・発展させることのできる主体者を育てる。

使用教科書・副教材等 Activev Sports(総合版) 大修館書店

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考 査 範 囲	評価の観点 のポイント			
						関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	思 考 ・ 判 断	技 能 ・ 表 現	知 識 ・ 理 解
前 期	4	オリエンテーション 体力測定 集団行動	スポ - ツテストを実施し、自己の体力を認識する。	・スポ - ツテスト ・集団行動					
	5	球技 バレーボール	1. チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を立てた攻防を展開してゲームができる。 2. 自己の役割を理解して、その責任を果たし、互いに協力しゲームができるようにする。 3. チームの課題や自己の課題を解決できるように、計画的な練習やゲームの工夫を工夫することができる。	1. パス・トス・スパイク等の基礎技術を身につける。 2. チーム内で練習方法を工夫し、協力して効率よく練習ができるようにする。 3. ゲームの中でパス・トス・スパイクを使った攻撃ができるようになる。 4. 公正な態度で、ルールに従い工夫しながらゲームができるようにする。					
	6	ダンス	1. 自己の能力に応じて、楽しみながら体を動かし、身体表現を通して自己実現ができるようにする。 2. 安全に留意し、計画を立てて、仲間と協力しながら活動できるようにする。	1. 音楽に合わせて、楽しくリズムカルに精一杯動けるようになる。 2. 自由なイメージを、個性を發揮した動きで表現できるようになる。 3. 群の動きや構成の工夫を工夫して、仲間と協力して作品を創り発表する。					
	7								
	8								
	9	マスケ - ム							
	10	球技 ハンドボール	1. チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を立てた攻防を展開してゲームができる。 2. 自己の役割を理解して、その責任を果たし、互いに協力しゲームができるようにする。 3. チームの課題や自己の課題を解決できるように、計画的な練習やゲームの工夫を工夫することができる。	1. ゴール型のゲームの特性を理解し、個人・集団技能を身につけ、ゲームで活かすことができる 2. 個人技能としては、パス・キャッチ・シュートなどを身につける。					

後 期	11	武道 剣道	1.技能の習得を通して自己形成を図る武道の伝統的な考え方を理解する 2.用具の着装、道場の安全を確かめたり、禁じ技を用いないなど安全に留意して、練習や試合ができるようになる。	1.基本動作ができるようになる。 2.対人技能(打ち方・防御法)ができるようになる。 3.技術構造である「攻め・崩し・打突」の関係を理解する。 4.審判法を理解し、正規のルールによる試合が行えるようになる。					
	12	器械運動 マット運動	1.自己の能力に応じて運動の技能を高め、技が円滑にできるようにする 2.互いに協力し練習できるようにする。また、安全に留意して練習や発表ができるようにする。 3.能力に応じた技を習得するため練習の仕方を工夫することができる。	1.回転系・バランス系の技ができるようになる 2.ほん転系の技ができるようになる。 3.ホップ側転を中心に7~10の技をつないで連続技を構成し、演技ができるようにする。					
	1	陸上競技 長距離走	1.自己の能力に応じて走る技能を高め、競技したり、記録を高めることができるようにする。 2.課題解決を目指し、計画的な練習や競技の仕方を工夫できる。	1.自分のペースをコントロールし長い距離をより楽に速く走れる技術を習得する。 2.合理的な練習方法など科学的認識がもてるようにする。					
	2	球技 サッカー	1.チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を立てた攻防を展開してゲームができる。 2.自己の役割を理解して、その責任を果たし、互いに協力しゲームができるようにする。 3.チームの課題や自己の課題を解決できるように、計画的な練習やゲームの仕方を工夫することができる。	1.キック・ドリブル・トラップ・ヘディングなどの基本技術を身につける。 2.基本技術を基礎としたコンビネーションからシュートまでの方法を身につける。					
3									
【課題・提出物等】									
【年間を通しての評価方法】			1.スキルテスト 2.授業参加態度 3.出欠席状況 4.忘れ物等 以上の項目を総合的に判断し評価する。						

(2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	安全に留意し、運動に親しみ、継続的に運動を実践することができる。また、ゲームなどを計画・運営し、公正な態度で評価することができる。	観察 授業参加
思考・判断	個人の能力に応じた課題を設定し、課題解決に向け、考えたり工夫したりすることができる。	観察 授業への取り組み
技能・表現	各種目で設定された課題の達成度を評価する。	スキルテスト
知識・理解	個人的・集団的の基本的な知識を理解し実践できる。	観察

(3) 評定の出し方について

<p>考查ポイント</p> <hr/> <p>平常点ポイント 各単元におけるスキルテスト(70p) 授業参加態度・意欲(10p) 授業道具忘れ物(10p) 授業出席点(10p)</p>
--

自己の体力を知り、運動の特性を理解して各種目に親しんでもらいたい。生涯スポーツの基礎を築いてもらいたいと考えます。

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	保健体育・保健	学年・学級	4年・全クラス	単位数	1
--------	---------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につける

使用教科書・副教材等 高等学校 現代保健体育(大修館書店)・現代保健ノ・ト(大修館書店)

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	考查に出題する 要点(合格 ライン)
前 期	4	私たちの健康のすがた	現在のわが国の健康水準について、過去や他国との比較を通して知り、時代とともに健康問題がどのように変化してきたかを理解する。	わが国における健康水準の向上 わが国における健康問題の変化	授業内容や教科書・保健ノ・トで学習した基本的な内容が理解できている	
		健康のとらえ方	数値にはあらわれにくい健康の側面や、現代社会における健康の成立条件について理解する。	健康についての考え方 健康の成り立ち 健康を保持増進する方法		
	5	さまざまな保健活動や対策	さまざまな保健活動や対策について知り、保健活動とヘルスプロモーションの理念に基づく活動の違いを理解する。	健康のための活動 ヘルププロモーションの活動		
		生活習慣病と日常生活行動	生活習慣病とは何かを知り、それを防ぐほうほうを食事・運動・休養および睡眠などの側面から理解する。	生活習慣病と関連の深い病気 健康の基本 食事・運動・休養・睡眠		
		喫煙と健康	喫煙の問題点をさまざまな角度から知り、現在どのような対策がとられ、これからどのような対策が必要かを理解する。	喫煙の健康影響 非喫煙者が受ける健康影響 喫煙に対する対策		
	6	飲酒と健康	飲酒の問題点をさまざまな角度から知り、現在どのような対策がとられ、これからどのような対策が必要かを理解する。	アルコールの作用 長期飲酒の健康影響 飲酒に対する対策		
		薬物乱用と健康	薬物乱用の問題点をさまざまな角度から知り、現在どのような対策がとられ、これからどのような対策が必要かを理解する。	薬物乱用の健康影響 薬物乱用がひきおこす社会問題 薬物乱用に対する対策		
		医薬品と健康	医薬品の役割について知り、医薬品を正しく使うためのポイントを理解する。	医薬品の役割 医薬品の使い方 医薬品の安全性のための対策		
	7	感染症とその予防	現在問題となっている感染症を知り、新たな感染症問題の防止のために、自分でやれること、社会がすべきことを理解する。	こんにち注意すべき感染症 新たな感染症問題とその予防策		
		エイズとその予防	エイズの実態について日本や世界の状況を知り、エイズや性感染症の予防のために、自分でやれること、社会がすべきことを理解する。	全人類の課題 - エイズ - エイズへの対策		
	9	健康にかかわる意志決定・行動選択	意志決定・行動選択の重要性を今日の健康問題の特徴と関連させ、意志決定・行動選択に影響する要因を、個人的なもの和社会的なものに分けて理解する。	適切な意志決定・行動選択の重要性 意志決定・行動選択に影響をおよぼす要因		
		意志決定・行動選択に必要なもの	適切な意志決定・行動選択のために必要なことを具体的に知り、個人が適切な意志決定・行動選択をしやすい社会とはどのような社会か理解する。	適切な意志決定・行動選択のために必要なこと 適切な意志決定・行動選択をしやすい社会		

第
2
回
考
査

後 期	10	欲求と適応規制	人間の欲求にはどのような種類があり、また、どのように欲求が生じるかを知り、欲求不満から生じる不安や緊張・悩みに対する適応規制を理解する。	心を大脳の働き さまざまな欲求 欲求不満と適応規制	授業内容や教科書・保健ノ -トで学習した基本的な内容が理解できている
		心身の相関とストレス	心の働きと体の働きが相互に影響しあう関係について知り、ストレスとはどのようなものであるか、ストレスの原因を理解する。	心と体のかかわり ストレスと心身の健康	
		ストレスへの対処	ストレスについて、自分でとることができる対処法を理解する。	原因への対処 とらえ方を帰ることによる対処 気分転換やリラクセーション 信頼できる人や専門家への相談	
	11	自己実現	自己実現とは何かを知り、自己実現を達成する過程や条件を理解し、自分にとっての自己実現とは何なのかを考えられるようにする。	自己実現と心の健康 自己実現の達成	
		交通事故の現状と要因	交通事故の特徴について、年齢や事故の様子から知り、交通事故に関係する要因としての当事者の心理・行動・車両の特性・周囲の環境などを理解する。	交通事故の現状 交通事故の要因	
	12	交通社会における運転者の資質と責任	安全な運転のために運転者に必要とされるものを知り、交通事故をおこした場合に生じる責任や補償について理解する。	安全な運転のための資質 交通事故の責任と補償	
		安全な交通社会づくり	安全な交通社会をつくるための方策について、法的な整備・施設・設備の充実の面から知り、車両の安全性を高めるための安全装置について理解する。	法的な整備と施設・設備の充実 車の安全性の向上	
	1	応急手当の意義とその基本	応急手当の意義について知り、適切な連絡・通報や運搬をふくめ、応急手当の手順について理解する。	応急手当の意義 応急手当の手順	
		2	心肺蘇生法	心肺蘇生法の原理および手順について理解し、心肺蘇生法ができるようになる。	
	日常的な応急手当		日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法を理解し、適切な手当ができるようになる。熱中症の応急手当の手順や方法を知り、適切な手当ができるようになる。	けがの応急手当 熱中症の応急手当	
【課題・提出物等】		保健ノ - ト・プリント			
【年間を通しての評価方法】		授業中の発言及び対話の等の観察 保健ノ - トの記入・活用状況 定期テスト 出席状況 忘れ物状況			
【教科テスト実施予定等】		年 2 回実施（第 2 回考査・第 4 回考査）			

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	自他の心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、進んで学習に取り組もうとする。	授業中の発言及び対話等の観察 保健ノ - トの活用
思考・判断	自他の心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に考え、選択すべき行動を適切に判断している。	保健ノ - ト及びワ - クシ - ト記入
知識・理解	健康・安全の意義を知り、心身の機能の発達や心の健康、健康と環境、障害の防止、健康な生活と疾病の予防などの課題の解決に役立つ基本的な事項を理解し、知識を身につけている。	定期テスト 保健ノ - トの採点

(3) 評定の出し方について

考査ポイントの具体 定期考査(100点)を70ポイントとする
平常点ポイントの具体 授業態度、参加(出欠、忘れ物)、提出物をそれぞれポイントにより評価し、30ポイントとする

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	芸術・音楽	学年・学級	4年・選択者	単位数	2
--------	-------	-------	--------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

主にアルトリコーダーを使用し基本的な曲から難易度の高いものまで演奏していきます。音楽史ではルネサンスの時代から現代まで1年間通して鑑賞も含めながら追っていきます。

使用教科書
副教材等

音楽 改訂版MUSIC ALTAS
リコーダーテキスト

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考 査 範 囲	評価の観点の ポイント
						関 心 ・ 意 欲
前 期	4月	アヴェ・マリア	アルトリコーダーの運指確認・読譜の確認・表現力の向上	アルトリコーダー	第 1 回 考 査	
		ルネサンス	西洋音楽の基礎知識の向上	音楽史・鑑賞		
	6月	ヴィバルディ 「四季」より	アルトリコーダーの運指確認・読譜力の向上・表現力の向上	アルトリコーダー		
		バロック	西洋音楽の基礎知識の向上	音楽史・鑑賞		
期	9月	フック 「ソナタ」 1楽章	バロック様式・リコーダー技術・読譜・表現の向上	アルトリコーダー	第 2 回 考 査	
		古典	西洋音楽の基礎知識の向上	音楽史・鑑賞		

後 期	10月	フック 「ソナタ」 2楽章～4楽章 ロマン派	バロック様式・リコーダー 技術・読譜・表現の向上 西洋音楽の基礎知識の向上	アルトリコーダー 音楽史・鑑賞	第3 回 考 査
	12月	フック 「重奏」 近代音楽	バロック様式・リコーダー アンサンブル能力・読譜・ 表現の向上 西洋音楽の基礎知識の向上	アルトリコーダー 音楽史・鑑賞	
【課題・提出物等】			鑑賞ノート		
【年間を通しての評価方法】			毎曲ごとに全員の前で発表しそれを実技の評価とする。 曲を理解し十分な表現力をもって演奏できるか評価する。 鑑賞ノートが十分に書けているか評価する。		
【教科テスト実施予定等】			なし		

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	授業態度や課題に対する取り組みの姿勢、忘れ物はないか、等の観点から評価します。	出欠状況・授業態度・取り組み姿勢（忘れ物・遅刻）
思考・判断	与えられた表現課題から多様な表現形式、表現方法を工夫しているか。様々な作品から感じた印象や自分の感想を、自分自身の言葉で表現できるか。実技や鑑賞を中心に評価します。	取り組み姿勢（実技・筆記）
技能・表現	与えられた表現課題の楽曲構成の美しさや表現効果を理解し考え、使用楽器や演奏法を、楽曲の表現意図に応じて活用しているかなど実技から評価します。	実技テスト・取り組み姿勢（実技、個人・グループ）
知識・理解	音楽に関する基礎知識を理解しているか。授業で使用する様々な作品の中で、その知識を応用できているか。授業態度・筆記・実技で評価します。	ノート・取り組み姿勢（実技・筆記）

(3) 評定の出し方について

考查ポイントの具体 なし
平常点ポイントの具体 授業態度や課題に対する取り組みの姿勢、忘れ物はないか、等の観点から評価します。

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	芸術・美術	学年・学級	4年・選択者	単位数	2
--------	-------	-------	--------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

<p>美術の美的直観力や創造力発想力、構成力を育てる。 4年次は物をよく見て描くことに視点を置き、基礎基本を大切にしながら授業を進める。 私語がなく、集中して授業に臨むとともに、提出期限を守ることや授業道具等を忘れないようにする。 4年次に履修した芸術(美、音、書)の教科は3年間変更できない。</p>	
使用教科書・副教材等	高等学校・日本文教出版 美術

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	評価の観点 のポイント			
						関心・意欲・態度	創造的 技能	技能・ 表現	鑑賞 能力
前期	4	用具の説明、 美術の意義について (3年間の計画)	美術の学習の意義を理解する。	美術の学習の意義について考え、プリントにまとめる。		○			
		デッサン	形、明暗、質感等を表現する 題材(手)	鉛筆で濃淡を意識して表現する。		○		○	
	5	油絵制作	油絵を理解する。 油絵の道具、材料を理解する。 油絵の表現方法を理解する 風景画の奥行きを表そう	キャンパス6号サイズ 手順にしたって油絵の下塗りから始める。 木炭による下書き 油絵による制作		○	○	○	
		魅力的な風景画を油絵で描こう				○	○	○	
6・7		静物画を油絵で描こう	モチーフの組み方を理解する。 モチーフの質感、奥行き	キャンパス8号サイズ 油絵で表現する。		○	○	○	
		造形の基礎点・線・面の3つの要素を学習する				○	○	○	
		面による作品	魅力的なTシャツデザイン シルクスクリーンの版画技法を理解する。	カッティング法を理解する。		○	○	○	

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	芸術科 書道	学科・学年・学級	第四学年選択者	単位数	2
--------	--------	----------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。	
使用教科書・副教材等	大阪書籍 高校書道

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查範囲	評価の観点 のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
前期	4	基本	用具・筆の持ち方の理解	書道とは					
	5	半紙作品 古典 蘭亭序	点画の用筆の理解 楷書・行書の基本の理解 古典の理解 蘭亭序の理解	用具・筆の持ち方・点画の用筆 楷書・行書の基本 古典作品・臨書 蘭亭序 俯仰法・双鉤てん墨					
	6	一字書 仮名作品 漢字作品 作品鑑賞	空間処理の理解 作品の制作方法 鑑賞ができるか 作品の客観視	空間処理について 作品の作り方 字の大小の変化 作品鑑賞 お互いで作品添削					
	7	古典作品 篆刻作品	自分の書を考える 篆刻の理解 集字・草稿ができるか 布字をしっかりとできるか 刻方・刻は正しいか	臨書作品探し・臨書 篆刻について 集字・草稿 布字 刻方・刻					
後期	9								
	10	漢字仮名交じり書の作品	漢字仮名交じり書の理解	漢字仮名交じり書について					
	11	仮名の練習 空間把握	作品の表現方法の理解 仮名の基本 自分で組み立てられるか	題材の選定および表現の研究 古典臨書 漢字仮名交じり書の再構築					
	12	做書制作・鑑賞 言葉の発見	他の人の作品を客観的に見ることが できるか	作品鑑賞会 言葉選び					
1	制作 ペン字	自分の作品表現 ペン字についての理解	自由課題 ペン字						
	2	名前 偏・旁・書き順	自分の作品表現 ペン字についての理解	名前の書き方 偏と旁・書き順					
		横書き 速書 美しく書くとは	名前・偏・旁・書き順の理解 横書きの方法の理解 速書の理解 美しく見理解える字が書けるか	仮名・漢字の基本 横書きの文章 横書きの速書 字形的損傷について 美しい書とは					

【課題・提出物等】	・授業時の作品、課題プリント
【年間を通しての評価方法】	・授業態度・意欲・作品・作品の伸び等が評価材料になる。 ・各学期ごとの成績を総合的に判断して年間の学習成績とします。

(2) 評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	各作品の完成度、作品制作に対する取り組み姿勢から評価します。 さらに制作にあたっての授業道具の準備、忘れ物はないかなども評価の対象となります。 書き始めよりレベルが上がるための努力をどの位しているか、書作を通して評価します。	出欠状況・授業態度・取り組み姿勢（忘れ物・遅刻）
思考・判断	書く題材をもとに、より良い作品を創るためにどういった表現を工夫するべきかを考え、筆遣い・墨継ぎ・かすれ・強調したいポイント等を押さえた上で書かれた作品かを評価します。	制作事前プリントの確認 作品草稿等
技能・表現	自分で考え、工夫した空間の処理方法や表現方法を使い、筆と墨を効果的に使うことで、自分自身の本来表現したかったものに、どの位近づくことができたかを評価します。	授業作品を通して作品草稿との比較を行う
知識・理解	客観的に作品に対して向き合えたか、自分自身を見つめ直すことができたか、作品制作を通して変化した部分を評価材料とします。	個人作品・グループ作品添削プリントの確認

(3) 評定の出し方について

考査のポイント	
平常点のポイント	授業態度、忘れ物3割 授業作品 7割

3 担当者からのメッセージ

<p>毎回作品提出があり、自己の限界を求めて授業を進めます。 少ない練習でも中身の濃い作品を作り上げるよう、頭を使って理論的な組み立てをしていきます。 中学時のお習字、書写とは違い、芸術の中の〔書〕として言葉、道具を大切に、創作活動を行います。</p>
--

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	外国語・OC	学年・学級	4年・全クラス	単位数	3
--------	--------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

<p>・ALTの先生との英会話を中心とした授業です。</p> <p>この授業では、二人の先生によるチーム・ティーチング形式で会話を中心に展開していきます。ここでは書いたり、読んだりではなく、聞く、話すという実践的な英語学習が基本です。積極的に授業に参加して英語を楽しみましょう。</p> <p>・(T)の授業では実際に口頭で表現する力を養っていきます。また、大学入試センター試験の英語や英検等に対応できるように、リスニングの力もつけていきます。</p>					
使用教科書	・Hello there! Oral communication I (東京書籍)				
副教材等	・Lisning Pilot Level() (東京書籍)				

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考 査 範 囲	考査に出題 する要点 (合格ライン)
前 期	4	オリエンテーション	学習の目的と方法, 評価の方法を理解する。 自己紹介ができるようになる。 簡単な挨拶ができるようになる。 許可を求めたり、相手のことを知るための表現が使えるようになる。 事柄を説明したり、意見を言うことができるようになる。	・学習の仕方を学ぶ。 ・英語の歌を歌う。	第1回考査	正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) 適切さ(場面や状況に応じた表現ができていないか。声の大きさ、速さは十分か。目的に応じた聞き方ができていないか。コミュニケーションの円滑さ。
		Nice to Meet You		・Listening CDを聞き、内容を理解する。		
	5	Lesson 1 Hello Friends!		・ALTの先生とJTEの先生の対話の内容を聞き取り、発問に英語で答える。 ・新しい表現を使って、ペアプラクティスをする。		
	6	Lesson 2 My Favorite Things		・入手した情報をもとに発表する。		
前 期	7	Lesson 3 What Are You Crazy About?	興味、関心のあるものを伝えたり、理由を述べるようになる。 許可を求めたり、ものの説明ができるようになる。		第2回考査	正確さ(リズム・イントネーション・文法。情報の内容) 適切さ(場面や状況に応じた表現ができていないか。声の大きさ、速さは十分か。目的に応じた聞き方ができていないか。コミュニケーションの円滑さ。
	9	Lesson 4 A Friendly Potluck Dinner				

後 期	10	Lesson 5 Are You All Right?	同情するときの表現や、体調がすぐれないときの説明、助言の表現が使えるようになる。	・英語の歌を歌う。 ・Listening CDを聞き、内容を理解する。	第3回 考査	正確さ（リズム・イントネーション・文法。情報の内容）適切さ（場面や状況に応じた表現ができていないか。声の大きさは十分か。目的に応じた聞き方ができていないか）
	11	Lesson 6 Talking about Our Town	距離、方角、場所を表す表現が使えるようになる。	・ALTの先生とJTEの先生の対話の内容を聞き取り、発問に英語で答える。		
後 期	12	Lesson 7 Where Are You Now?	道を尋ねる表現が使えるようになる。	・英語の歌を歌う。 ・Listening CDを聞き、内容を理解する。	第4回 考査	正確さ（リズム・イントネーション・文法。情報の内容）適切さ（場面や状況に応じた表現ができていないか。声の大きさは十分か。目的に応じた聞き方ができていないか。コミュニケーションの円滑さ）
	1	Lesson 8 My Way	描写をするときの表現、欲求や願望を表す表現が使えるようになる。 人を誘うときの表現 アドバイスをするときの表現 説明するときの表現	・ALTの先生とJTEの先生の対話の内容を聞き取り、発問に英語で答える。 ・新しい表現を使って、ペアプラクティスをする。 ・入手した情報をもとに発表する。		
【課題・提出物等】			1. 授業用プリント 2. リスニングテキスト			
【年間を通しての評価方法】			定期考査の成績と長期休暇中の課題テストで7割、平常点（提出物の状況、小テスト、授業態度ほか）3割の配分で評価します。			
【教科テスト実施予定等】			特になし			

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動（読み、書き、話し、聞くという活動）を行い、いろいろな練習の中で、先生や他の生徒とコミュニケーションを図ろうとしているかを見ます。	授業態度 授業プリントの取り組み状況
思考・判断	幅広い話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現することができるかを見ます。	活動の取り組み、発表の内容、態度 定期考査、課題テスト
技能・表現	幅広い話題について、英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとするを理解することができるかを見ます。	活動の取り組み、発表の内容、態度 定期考査、課題テスト
知識・理解	幅広い話題についての英語の学習を通して、英単語や熟語を覚え、英語の発音や文法、構文や言葉の使い方（語法といいます）に関する知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解しているかを見ます。	授業（発表）の様子 定期考査、課題テスト

(3) 評定の出し方について

考査ポイントの具体 定期考査・課題テスト
平常点ポイントの具体 提出物、授業態度、その他（インタビュー等を含む）

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	外国語・英語	学年・学級	4年・全クラス	単位数	3
--------	--------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

1. 授業では予習を前提とする。与えられた課題は家庭学習で取り組んでから授業にのぞむこと。 2. 1セクションを2時間程度で進める。 3. 毎時間小テストを行う。 4. 週末課題を確実にやり提出すること。	
使用教科書 副教材等	教科書：Genius English Course Revised 福教材：教科書付属予習ノート、OASIS 1 プレ基礎編 VALUE1400, VALUE Drill Book

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考查 範囲	考查に出題 する要点 (合格ライン)
前期	4月	L1.The World of Street Performer	・世界の街角で繰り広げられるストリート・パフォーマンスに隠されたコミュニケーションの原点に触れる。	・希望を述べる,仮定する,意見を述べる,5文型の区別(SV00,SV0C),不定詞の3用法,動名詞,分詞。	第1回 考查	各レッスンにてでくる語彙を暗記する。各英文の内容を理解する。文章全体の趣旨をとらえている。週末課題の学習内容を理解している。
	5月	L2.Jamie Oliver-The Naked Chef	・一夜にしてスターとなったイギリスの若い料理人ジェイミーオリバーの人気の秘密と料理哲学を学ぶ。	・食事中の会話,経験を聞く,意見を求める,現在完了形,関係代名詞。		
	6月	L3.Proud Panther	・ギニアに住んでいる少女フィンダが,様々な困難にも負けず,学校へ通う様子を理解する。	・校内での会話,説明する,感想を述べる,過去完了形,完了進行形		
後期	6月	L4.Young Victim of War	・イラク,コソボ,アフガニスタンで,戦争に苦しむ子供たちをどのようにサポートしていくべきかを学習。	・図書館での会話,意見を述べる,提案するSV(=be)C(節),SV00(節),seem to,It seems that	第2回 考查	各レッスンにてでくる語彙を暗記する。各英文の内容を理解する。文章全体の趣旨をとらえている。週末課題の学習内容を理解している。
	7月	R1.The Star	・見知らぬ少女から,森で遭難した弟を探してほしいと依頼された不思議な能力を持つ主人公が,どのようにして問題解決するか読みとる。	・登場人物の心の探りあいに関心を持ち,各場面での気持ちを表現する。概要を捉え要約する。		
	9月	L5.Easy Japanese	・阪神淡路大震災で,外国人居住者への情報伝達に大きな支障があったことを踏まえ,非常時におけるEasy Japaneseについて学習する。	・意見を述べる,理由を述べる,意見を求める。注意すべき受身形,SV00(疑問詞),SV00(分詞,原型不定詞)		

後 期	10月	L6.Pink Bow Tie	・脱色した疑いで校長室に呼び出された主人公が語る,意外な事実について読み進める。	校内放送,形式主語・形式目的語のit,分詞構文,強調構文。	第3回 考査	各レッスンにでてくる語彙を暗記する。各英文の内容を理解する。文章全体の趣旨をとらえている。週末課題の学習内容を理解している。
	11月	L7.Child Labor	・児童労働者とはどのような子供たちのことであるかを知り,その実態を具体的なケースに触れながら探る。	スピーチ,関係代名詞what,非制限的用法,部分否定。		
	12月	L8.Ant Communication	・アリの生態の神秘に迫る。	。プレゼンテーション,関係副詞,前置詞+関係代名詞,指示代名詞that		
	1月	L9.My Brother's Keeper	・癌に侵された息子と親戚に行く途中,ホームレスの男性に助けられたことを契機にボランティア活動を始めた筆者の思いを読み取る。	仮定法過去,仮定法過去完了。	第4回 考査	各レッスンにでてくる語彙を暗記する。各英文の内容を理解する。文章全体の趣旨をとらえている。週末課題の学習内容を理解している。
	2月	L10.I will Be There for You	難病に冒されながらもニューヨークシティマラソンを完走した筆者と,有名なマラソンランナーとの交流について学習する。	仮定法を含む重要表現。		
	3月	R2.The Vicar's Pleasure	牧師になりすまして骨董品を物色している主人公が,ものすごいお宝を発見してからの騒動を読む。	各場面の進展を理解し,伝えようとしている教訓を読み取る。		

【課題・提出物等】	1.授業の最初に小テスト 2.週末課題 3.投げ込み教材
【年間を通しての評価方法】	小テスト提出物授業態度出席状況を総合的に判断
【教科テスト実施予定等】	あり

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	きちんとした服装や姿勢で積極的に授業に参加している・予習が出来ている・提出物は期限を守って,完全なものを提出している・積極的に言語活動を行い,コミュニケーションを図ろうとしている。	授業ノートなどの提出物の内容,学習活動への参加の仕方や態度
思考・判断	日常的な話題について,英語を聞いたり読んだりして,情報や考えなど,相手が伝えようとすることを理解し,状況が判断できる。	定期考査・小テスト,授業ノートなどの内容,授業中の発表
技能・表現	日常的な話題について,情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり,書いたりして表現できる。	定期考査・小テスト,授業ノートなどの内容,授業中の発表
知識・理解	日常的な話題についての英語の学習を通して,発音,文法,構文に関する知識や使い方を身につけると共にその背景にある文化などを理解している。	定期考査・小テスト,授業ノートなどの内容,授業中の発表

(3) 評定の出し方について

考査ポイントの具体 3つの考査(定期考査・教科テスト・課題テスト)で70ポイント
平常点ポイントの具体 小テスト点 : 10ポイント(毎時間の小テストの平均点) 提出物点 : 10ポイント(授業ノート・予習ノート・週末課題) 意欲・態度点 : 10ポイント(授業態度・プラスアルファの課題)

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	家庭・家庭基礎	学年・学級	4年・全クラス	単位数	2
--------	---------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

学習目標 1 一人ひとりが自立して生活できるよう、基本的な知識と技術を習得する。 2 学習を通じて、自身の「生き方・在り方」を考え、自分の「心身」やその「生活」がより望ましいものとなるように取り組む。 3 望まれる社会の実現のための担い手となる力を身につける。	
履修上の注意 様々な角度から社会について学び、「自分に何ができ、何をせねばならないのか」「自分自身の生き方をどう創っていくのか」を考えるなど、家庭基礎で学ぶ内容は自分の人生を築いていくことそのものです。限られた時間ですが、授業で取り上げていく問題について積極的に考え、自分の意見を持ち、自分にとって最も望ましい生き方が実現できるようにしっかり取り組んでほしいと思います。新聞記事等を積極的に読み、社会への関心・理解をより深めていきましょう。	
使用教科書 副教材等	教科書：第一学習社「家庭基礎 -自分らしく生きる」 副教材：第一学習社「生活ハンドブック」

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考 査 範 囲	考 査 に 出 題 す る 要 点 (合格ライン)
前 期	4	家庭科を学習するに当たって		家庭科を学ぶ意義	第2回 考 査	・授業で使用 する学習プリ ントの内容 ・授業での考 察に関するこ と
	5	共に生きる	発達課題と私たちの課題について考える。 男女共同参画社会の実現をめざし、男女がどのように協力すればよいか、その課題について考える。	人の一生と生涯発達 ジェンダーと性別役割分 業意識 家事労働と職業労働の両 立		
	6		装う	健康で快適な衣生活をおくる力を養う 被服と健康 健康で安全な衣生活		
	7	消費を考える	消費生活と環境との関りを理解し、環境負荷の少ない生活を送るために自分の生活様式を見直し、実践していく力を養う	環境にやさしいライフスタイル 環境にやさしい消費行動		
	8	食べる	「食べる」ことが一生にわたって自分の心身や生活のリズムをつくっていることを認識し、よりよい食生活を確立していく力を養う	食生活と栄養 ・豊かな食生活のために ・現代の食生活とその課題 ・栄養素の働き ・栄養所要量と摂取量のめやす		
9						

後 期	10	食べる	「食べる」ことが一生にわたって自分の心身や生活のリズムをつくっていることを認識し、よりよい食生活を確立していく力を養う	食品の選択 ・食品の栄養と特性 ・食品の選択と保存 食生活の安全と衛生 ・食生活を見直す 献立と調理 ・調理の基本 ・調理実習	第4回 考査	・授業で使用する学習プリントの内容 ・授業での考察に関すること
	11					
	12					
	1					
	2					
3	共に生きる	青年期にある自分と向き合い、自己管理や自分の「生き方・あり方」、男女が協力して社会を築くことの意義について考える 青年期のからだと心 青年期の課題 男女の平等と相互協力 ・男女平等と性差 ・「育つ」と「育てる」 ・児童虐待と子どもの人権				
【課題・提出物等】		毎時間の終了時に、授業プリントを提出する。その他の提出物や課題等は、授業時に指示する。				
【年間を通しての評価方法】		毎時間の授業プリントの内容、授業規律の定着度、授業への取り組み、定期テスト、課題、提出物、出欠席状況などを総合的に判断して評価する。				
【教科テスト実施予定等】		なし				

(2) 評価の観点・内容・および評価方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	授業規律の定着度 授業中の発言等
思考・判断	家庭や地域の生活について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	課題や授業プリント 授業中の発言
技能・表現	家庭や地域の生活を充実向上するため必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	実習活動の観察 実技テスト
知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するため必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	定期テスト 課題や授業プリント

(3) 評定の出し方について

考査ポイントの具体 定期考査(100点)を、40ポイントとする。
平常点ポイントの具体 提出物、課題、授業態度、実習の取り組みをそれぞれポイントにより評価し、60ポイントとする。

平成21(2009)年度 シラバス

教科・科目名	情報・情報A	学年・学級	4年・全クラス	単位数	2
--------	--------	-------	---------	-----	---

1 年間の学習目標・履修上の注意等

<p>前期(4月～9月): コンピュータの基本操作の習得に重点をおいて、キータッチ練習、簡単な画像処理ソフト、プレゼンテーションソフト、メールソフト、ブラウザソフト、文書作成ソフト、ファイル管理等の実習をすすめる。また、プレゼンテーションのあり方、検索エンジン、通信の取り決め、ファイル形式、情報のデジタル化、圧縮と解凍などについての理解をすすめる。</p> <p>後期(10月～3月): コンピュータのより実践的な操作の習得に重点をおいて、タグによるWebページの作成、文書作成ソフト、表計算ソフト等の実習をすすめる。また、実際にネットワークを構築し、ネットワーク社会への参加の心構え、著作権などについての理解をすすめる。キータッチ練習については年間を通じて行う。</p>	
使用教科書・副教材等	<p>教科書: 情報A(実教出版)</p> <p>副教材: 基礎からはじめる情報リテラシー(実教出版)</p> <p>ケーススタディ情報モラル(第一学習社)</p>

2 学習計画および評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	単元 (教材名)	学習目標 (学習のねらい)	学習活動	考査範囲	考査に出題する要点 (合格ライン)
前期	4	情報機器の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンの基本操作に慣れる。 ・ペーパーレスはゴミの減量や二酸化炭素放出の抑制につながることを教える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起動と終了 ・キーボード、マウスの操作、日本語入力 ・タイピング練習 ・ファイルの保存、管理の方法 	第二回考査	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本操作や用語を理解している
	5	インターネットの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットによる情報検索が確にできるようになる。 ・電子メールで情報の送受信が行えるようになる。 ・ネットワーク利用の心がまえ 	<ul style="list-style-type: none"> ・Webページの閲覧、検索方法 ・通信の取り決め ・メールアカウントの設定 ・メールの作成と送受信 ・情報の信ぴょう性と信頼性 ・情報の保護・セキュリティ 		<ul style="list-style-type: none"> ・AND,OR,NOTの検索方法を理解している ・POP,SMTPなどのサーバが理解できている
	6	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを使えるようになる。 ・プレゼンテーション能力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドの作成 ・デジタルカメラによる撮影 ・プレゼンテーションの体験 		<ul style="list-style-type: none"> ・画像加工 ・著作権の理解 ・スライドを作成し、発表ができる
	7	表計算ソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトの基礎的な操作法を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オートフィル ・自動計算 		<ul style="list-style-type: none"> ・オートフィル ・自動計算
	9	絵日記の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・文書作成ソフトを用いて夏休みの出来事を絵日記にす 	<ul style="list-style-type: none"> ・文書作成ソフトの活用 ・画像の作成と貼り付け 		<ul style="list-style-type: none"> ・キー入力, 画像加工, 表現力
		情報のデジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータで扱われるデジタル情報について知 	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログとデジタル ・音声、画像のデジタル化 		<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルの特性が理解できて
		タグによるWebページの作成1	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストエディタにタグを入力してWebページを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なタグの理解 ・HTMLファイルの作成 ・Webページの作成 		<ul style="list-style-type: none"> ・タグの意味が分かる
		タイピングテスト 期末考査				

後 期	10	タグによるWebページの作成2	・テキストエディタにタグを入力してWebページを作成する。	・基本的なタグの理解 ・HTMLファイルの作成 ・Webページの作成	第四 回 考 査	・学校紹介として表現できる ・タグの応用
	11	文書の作成	・文書作成ソフトを自由に使いこなせるようになる	・表の作成 ・ビジュアルな文書の作成		・表・クリップアート・オートシェイブが活用できる
	12	年賀状の作成	・文書作成ソフトで年賀状をつくる	・画像の取り込み（著作権への配慮）		・文章や画像での表現力
	1	ネットワークの基礎	・ネットワークが構築できるようになる	・LANケーブル作成 ・IPアドレス変更 ・ハブやケーブルによるネットワーク構築		・IPアドレス、コンピュータ名、コマンド、情報機器の働きを理解している
	2	情報社会への参加と情報技術の活用	・情報化社会とはどのような社会か、また情報か社会へどのように関わっていけばいいか、考える。	・OSの理解 ・ロゴマーク作成と著作権 ・情報技術活用の重要性		・オープンソース、コピーレフトなどを理解し、情報社会へ参画する能力がある
	3	タイピングテスト 期末考査				
【課題・提出物等】			・授業中作成した実習課題（作品）			
【年間を通しての評価方法】			定期考査、実習課題（作品）、提出物、授業への取り組みの様子、出席状況等で評価します。そして、各学期ごとの成績を総合して年間の学習成績とします。			

（2）評価の観点・内容・および教科方法

評価の観点および到達目標		評価方法
関心・意欲・態度	パソコン操作や情報通信技術に関するさまざまなことから高い関心をもつことができるか。授業・実習に意欲的に取り組み、知識・技能の向上に努め、より深く理解しようとしているか。	実習作品、考査、授業への取り組みの様子、その他提出物により評価する。
思考・判断	実習などを通して、情報通信技術に関するさまざまなことから論理的・総合的に考察できるか。また、情報モラルなどについての適正な判断ができるか。	実習作品、考査、授業への取り組みの様子、その他提出物により評価する。
技能・表現	実習などを通して、パソコン操作の技能を修得しているか。パソコン操作の方法や実習作品の表現形態などに工夫がみられるか。	実習作品、考査、授業への取り組みの様子、その他提出物により評価する。
知識・理解	パソコンや情報通信技術などについてのしくみについて理解し、知識を身につけているか。	実習作品、考査、授業への取り組みの様子、その他提出物により評価する。

（3）評定の出し方について

考査ポイントの具体 定期考査(100点)を40ポイントとする。
平常点ポイントの具体 提出物、課題、授業態度をそれぞれポイントにより評価し、60ポイントとする。